

第 3 章 基本目標を横断する方針

基本目標を横断する方針 1 スマートシティ構想

コロナ禍による社会及び個人への多大な影響は、社会・経済活動のみならず個人の価値観・ライフスタイル等にも急激な変容をもたらしました。緊急事態宣言による外出自粛を機に、リモートワークが以前にもまして注目され、住む場所に縛られない自由な働き方へのニーズから改めて地方移住等への関心が高まりました。また、業務活動においても、デジタルを活用した業務実施及び効率化の流れが大きくなりました。

国は【デジタル田園都市国家構想総合戦略】を打ち出し、地方創生の加速化・深化に向けてデジタルの力を活用した「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」の構築を掲げ、その取り組みを実施しています。また、自治体組織に対しても【デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針】として、「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」を目指すべきデジタル社会のビジョンとして示し、【自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画】に基づく市民サービス並びに業務に関するデジタル化を推し進めています。

江津市においては、市の情勢を鑑みた上で、予測される市の財政状況を考慮した市民生活の安全・安心及び市民サービスの維持・向上を図るために、「スマートシティ江津推進構想(第 6 次行財政改革)」を策定し、アクションプランに基づく DX 化を推進していきます。

【取り組みの方向性】

「スマートシティ江津推進構想(第 6 次行財政改革)」では、スマートシティ江津の実現に向けて以下の 3 つのテーマを掲げており、この方向性に沿って市行政の DX 化を促進していきます。

①市民サービスの改革

自治体 DX の推進に合わせた各種事業の仕組みの見直し

②業務プロセスの改革

B P R とデジタル化による業務プロセスや職場、働き方の改革

※ B P R・・・業務内容等を抜本的に見直し、再設計すること

③人と組織の改革

持続可能なまちを運営する DX 人材の育成と組織体制の構築

【後期基本計画実施施策との関係】

各担当課においてもデジタルを活用した施策が展開されており、市民の QoL(Quality of life) 向上に向けたデジタル化を率先して実施しています。

基本方針 1 活力ある産業で豊かな生活を築くまちづくり

施策 1 若者に魅力ある産業づくり

- 江津市地場産業振興センターを改修し、令和 4 年度にサテライトオフィス及びコワーキングスペースを開設しました。IT やバックオフィスを含む幅広い分野の企業誘致を積極的に展開し、地元雇用を促進するとともに関係機関と継続的なフォローアップ体制を構築しています。
- 農林水産業では、スマート農業、高性能林業機械や森林資源解析の導入等により、省力化と効率化を推進します。

基本方針 3 健康で安心して暮らせるまちづくり

施策 健康で活動的な長寿のまちづくり

- 【江津市国民健康保険第 3 期データヘルス計画】内において、これまでの受診データから江津市の傾向を把握し、江津市における健康課題を客観的に分析しました。また、該当する市民に対して、過去の受診データ等を分析して受診勧奨を実施、受診率向上に努めています。

基本方針 4 安全で快適な暮らしを支えるまちづくり

施策 地域を支える道路交通体系づくり

- 【江津市地域公共交通計画】内において、将来を見据えた持続可能な公共交通の運営・管理体制の構築を目指す【江津市版 MaaS 導入の検討】を施策として盛り込み、令和 7 年以降の実施に向けて取り組んでいます。
- ※MaaS（Mobility as a Service）…地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

基本方針 5 豊かな心を育む芸術・文化・教育・スポーツのまちづくり

施策 豊かな創造性を育む人づくり

- GIGA スクール構想を推進するために ICT 環境の整備を推進しています。教育活動の質を上げるため、また子どもたちの多様なニーズに対応するために ALT や学校司書・学力向上支援員・ICT 支援員等を配置しました。デジタル社会がもたらす多様な情報に対して、子どもたちが正しく扱えるようデジタルリテラシー教育も推進しています。

基本目標を横断する方針２ シティプロモーション推進

江津市では、第１期総合戦略の策定時から、本市が将来にわたり活力あるまちとして繁栄するために、ここに暮らす人々が「新たなことに挑戦する気質」や「生きる力」を養うことができる環境づくりを進め、かつ、「挑戦する人を応援する風土」を培っていくという願いを込めた【GO▶GOTSU 山陰の「創造力特区」へ】というまちづくりのスローガンを作り、江津市の磨き上げを行ってきました。

第１期総合戦略におけるシティプロモーションでは、地域内外に広く地域の魅力を伝え、江津市へのＵＩターンの促進を目的とした取組を実施しました。また、第２期総合戦略のシティプロモーションでは第１期の目的に加えて、以下の目的を盛り込み施策を実施しました。

- ① 【『関係人口』（ふるさと納税やＰＲ活動などによってまちの活性化に関わる人）】や【『活動人口』（社会的な活動や生産的な活動を通じてまちの活性化に関わる人）】といった移住・定住以外での江津市にかかわりを持つ人材の受け入れの促進。
- ② 市内の産業・教育・福祉・地域づくり活動など、さまざまな分野で活躍する人材の取組みを地域の魅力として地域に発信し、シビックプライド（まちに対する市民の誇り）の醸成。

第１期・第２期のシティプロモーションを通して、創業や新規就業をはじめとした移住・定住者の増加や市民アンケートの結果から【GO▶GOTSU 山陰の「創造力特区」へ】の取組認知の拡大が見られます。今後は、地域の公共施設のリブランディング等を通じた地域住民と市外人材との協働事業を軸として、関係人口・活動人口の繋がりを深めつつ、市民の地域に対する愛着・誇りを高め、幸福度向上につなげていきます。

＊リブランディング： 地域の特産品・観光地・地域イメージ等の既存の地域ブランドを、時代の変化や顧客に合わせて構築し直すこと

【取り組みの方向性】

民放放送局と連携し、菰沢公園と波子駅に対して、地域住民を含めた様々な企業や人材との連携を通してリブランディングを実施し、江津市の魅力を発信するとともに、新しい価値の発見・価値の深化に取り組んでいきます。

市民に対して、インナーブランディングとして、GO▶GOTSU!フェスの実施や GO▶ganicを通じた地元有機栽培に対する理解の促進、給食への活用を基にした食育の促進に取り組んでいきます。

桜江地区で実施されている小さな拠点づくりの取組やコミュニティ・スクールの導入を通して、年齢や職業を超えて地域内の方々が助け合い・学び合いを行い、相互理解を深めていくことで、地域におけることへの愛着を深めるとともに自己効力感を醸成します。

多様な働き方や生き方を子どもたちが知るために、地域ぐるみの「ふるさと・キャリア教育」の推進を行います。

＊インナーブランディング： 自地域のまちづくり理念や魅力・ブランドを、地域住民に伝えて浸透させる活動

＊自己効力感： 人がある課題に直面した際、自分にはそれが実行できる、という期待や達成する能力があるという認知

【後期基本計画実施施策との関係】

基本方針 1 活力ある産業で豊かな生活を築くまちづくり

施策 1 若者に魅力ある産業づくり

- 有機農産物の生産拡大のため、有機農業就農希望者の受け入れ体制づくりと支援を行うとともに、オーガニックイベント等の開催によりPRと意識醸成を図っていきます。

基本方針 1 活力ある産業で豊かな生活を築くまちづくり

施策 3 雇用を支える定住環境づくり

- ビジネスプランコンテストなどにより、Uターン創業人材などの確保が進んでいます。また、GO▶GOTSU!ブランドサイトや首都圏でのプロモーション活動などを展開しています。令和5年度より、民放放送局と連携したシティプロモーションを開始しました。菰沢公園・波子駅のリブランディング化を軸に据え、住民をはじめとした多種多様なステークホルダーとの協働を通して、江津市の魅力を発信するとともに、価値の創造に取り組んでいます。

基本方針 2 自然を活かしたふれあいのあるまちづくり

施策 2 自然環境とふれあう交流のまちづくり

- 民間や地域コミュニティ組織が主体となり、農業体験や田舎暮らし体験をはじめ、江津市ならではの体験事業や交流イベント・活動が展開されています。また、まち・ひとと結び事業費補助金を設け、江津市内の地域活動団体が行う移住・定住・交流事業や体制づくりにかかる取組を支援しています。

基本方針 3 健康で安心して暮らせるまちづくり

施策 3 子どもたちが健やかに育つための環境づくり

- 家庭・学校・地域などが連携し、「命を大切にする心、郷土を愛する心」を育む教育を推進しています。ふるさと・キャリア教育や「赤ちゃん登校日」、親学講座の開催を通して、世代を超えた交流を生み出し、地域の営みを感じ取り、地域への慈しみを感じ取れる取組を実施しています。

基本方針 5 豊かな心を育む芸術・文化・教育・スポーツのまちづくり

施策 2 豊かな創造性を育む人づくり

- 学校と地域社会が関係を深め、連携した取組を通して、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を推進していくために、江津市「コミュニティ・スクール」導入推進計画を策定し、市内全校に対してコミュニティ・スクールの実施に向け取組を実施していきます。

基本方針 6 コミュニティがいきいきと輝くまちづくり

施策 2 自らが考え、行動する、自立した地域づくり

- 江津市では、連合自治会エリアを単位に 20 の地域コミュニティ組織が発足し、地域づくり 10 年計画に基づいた活動を展開しています。また、江津市桜江地区では、5 地区連携 5 か年計画を策定し、防災対策や移動販売の実践、地域交流拠点施設の立ち上げなどを行い、地域の小さな拠点づくりの取り組みを実施しています。

基本目標を横断する方針3 人を中心とした【働き方】の在り方

本市の人口の社会動態は、誘致企業の撤退や縮小、地場産業や建設業の廃業などの雇用環境の変化に大きく影響を受けてきました。令和元年に一時的に社会増になりましたが、令和2年以降一貫して、社会減が続いており、自然減が続く江津市では人口減が続いています。その結果、産業をはじめとして、介護・医療分野や教育分野など幅広い分野において人手不足が深刻な状況となっています。

このような状況下では、江津市で働くということを問い直し、江津市で働く方が安心と尊厳を持って仕事に取り組めることが重要であり、そのため、【人材】を中心とした働き方の在り方を模索し、持続・発展的な雇用の場の創出とはたらく人材の確保を進めていきます。

【取り組みの方向性】

- ① 地域おこし協力隊、地域活性化起業人などの総務省制度をはじめとした施策の活用
 - 基本方針2を通して、UIターン者を含む江津市の取組や方向性に共感していただいた方々に対して、既存制度を活用することで江津市への移住・起業に対する抵抗感の減少と誘導を進め、人材の確保に努めます。
- ② リスキリングや人材育成を通した求職者支援
 - 江津市では女性の就業率が年々増加しています。一方で事務職への希望が多く、市内の求人職種とのミスマッチが起きています。そのため、サテライトオフィスを活用した企業誘致を行い、職種の選択肢を広げるとともに、求職者に対して、企業ニーズに沿ったスキルの習得やリスキリング支援を実施し、企業・求職者双方のニーズを満たしたマッチングを実現するとともに、働く方のキャリアプランの可能性を広げる支援が重要です。
- ③ 多種多様なコミュニティを通した支え合いの場の創出
 - 移住や起業を通して江津市にいられた方が継続的に営んでいけるようコミュニティを通した地域住民と関われる場の創出を推進していきます。ビジネスプランコンテストを中心とした起業家同士のつながり、Go▶ganicでは有機野菜を通したつながりなどの職種のつながり、地域コミュニティやコミュニティ・スクールを通した地域とのつながりなど、来ていただいた「人」が末永く、江津市で営んでいけるよう支えていく体制を構築します。

【後期基本計画実施施策との関係】

基本方針 1 活力ある産業で豊かな生活を築くまちづくり

施策 1 若者に魅力ある産業づくり

- 地域ぐるみで取り組む有機農業産地づくり支援を実施し、有機農業に対する新規参入促進を積極的に行っています。また、有機農業に携わりたい人に向けた多様な受け皿の確保も推進しています。

有機農業実践講座の開催や各種イベントの実施により、コミュニティの醸成を図っています。仲間づくりに繋がる取り組みを通じて、移住定住に繋げていきます。

- サテライトオフィス及びコワーキングスペースを活用し、IT やバックオフィスを含む幅広い分野の企業誘致を積極的に展開し、地元雇用を促進しています。

施策 3 雇用を支える定住環境づくり

- ビジネスプランコンテストなどにより、U I ターン創業人材などの確保が進んでいます。また、参加者に対して事業化に向けた伴走支援を実施しています。
- 定住相談や支援を専従で行う定住相談員を配置し、空き家バンクによる「住居」の紹介やワークステーション江津と連携した就業の支援のみならず、U I ターン後のフォローアップを実施し、移住後の生活に寄り添った支援を展開しています。
- 求職者のスキルアップ支援を行うとともにワークステーションなどと連携し、求職者のキャリアプランの実現に努めます。
- ダイバーシティの理解を促進することで、外国人だけでなく、高齢者・障がい者なども含め、誰もが安心して働ける環境を整備します。

基本方針 3 健康で安心して暮らせるまちづくり

施策 3 子どもたちが健やかに育つための環境づくり

- 保護者のニーズに対応した特別保育（一時保育、休日保育、病後児保育、延長保育、障がい児保育）を推進するとともに、医療的ケア児の支援体制を整備していきます。

基本方針 5 豊かな心を育む芸術・文化・教育・スポーツのまちづくり(再掲)

施策 2 豊かな創造性を育む人づくり

- 学校と地域社会が関係を深め、連携した取り組みを通して、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を推進していくために、江津市「コミュニティ・スクール」導入推進計画を策定し、市内全校に対してコミュニティ・スクールの実施に向け取り組みを実施していきます。

基本方針 6 コミュニティがいきいきと輝くまちづくり

施策 2 自らが考え、行動する、自立した地域づくり

- 江津市では、連合自治会エリアを単位に 20 の地域コミュニティ組織が発足し、地域づくり 10 年計画に基づいた活動を展開しています。また、江津市桜江地区では、5 地区連携 5 か年計画を策定し、防災対策や移動販売の実践、相乗りタクシーを用い

た交通弱者への対策、地域交流拠点施設の立ち上げなどを行い、地域の小さな拠点づくりの取り組みを実施しています。

基本目標を横断する方針 4 官民連携の市民サービス向上

江津市では、行政運営の効率化という観点から民間団体等の積極的な活用を実施しており、主に指定管理者制度を活用した公共施設の運営管理を委託しています。また、行財政改革の成果として、将来負担比率の改善が見られていることから引き続き改革を推進していく必要があります。

しかし、今後、人口減少に伴う財政の縮小は避けては通れるものではありません。また、社会情勢の急激な変化により、市民サービスは多様化・複雑化しており、財政の健全化を押し進めつつ、市民サービスの維持・向上に努めるという双方のバランスを保ちながらの行財政運営を実施する必要があります。

そのため、従来の指定管理者制度の活用という選択肢の他に PPP・PFI のような官民が連携した公共サービス提供スキームや企業版ふるさと納税を活用した民間人材の活用など、幅広い官民連携の制度を検討・活用し、財政の健全性を保ちながら、幅広い市民ニーズに対応していきます。

* PPP：パブリック・プライベート・パートナーシップ(官民連携)

官民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム

* PFI：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ

公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行う

【取り組みの方向性】

企業版ふるさと納税の活用

- 国が認定した地域再生計画に位置付けられる地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みを活用し、江津市の地域活性化事業を推進していきます。